八代港の現在

八代港の概要

貨物輸送：バルク貨物、国際コンテナ貨物（釜山航路、台湾航路、神戸港への国際フィーダー航路）

旅客輸送：大型クルーズ船寄港（2017 年の寄港実績:68 回）

防災対応：耐震強化岸壁を用いた給水支援、捜索活動　等

港湾エリアの活用：みなとオアシス八代（くまモンポート八代、舟出浮き乗船場、エコエイトやつしろ）

八代港の未来（将来イメージ）

八代市経済文化交流部　商工・港湾振興課〒866-8601　八代市松江城町 1-25　TEL 0965-33-8777　FAX 0965-33-7007

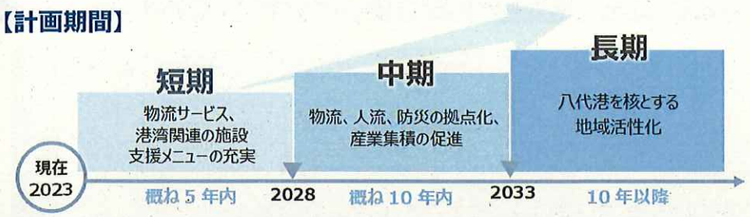
八代港を核とする将来的な成長ビジョン

令和５年（2023 年）３月　　八 代 市

【計画の概要】 八代港は社会の変化に対応しながら南九州の主要産業を支え、県下最大の貿易港として発展してきました。近年においても、コンテナヤードの移設・拡張、くまモンポート八代の整備や CFS 倉庫の完成など着々と成長を続けており、今後は TSMC の本県進出を契機とした輸出入貨物の増加も見据えた新たな取組みも必要となっています。

本ビジョンは、これまでの八代港の歩みに加え、脱炭素化の加速やデジタル技術の革新等、急激な社会変化が想定される将来においても、八代港が産業活動や市民生活にとって必要不可欠な役割を果たすことができるよう、将来の姿を設定し、その実現に向けた取組方針等を策定するものです。

【計画期間】



※本ビジョンにおける施策等は、対象範囲が広範にわたるものであり、港湾を中心に多様な関係者の連携を促し、港湾地域や周辺地域の発展に幅広く寄与することを目指すものです。港湾関係者や市民が親しみを持ち、八代港港湾計画等と連動した取組みを進めていくことが、八代港を中心とした地域の発展につながるものと想定して設定したものであり、事業の実施や完了が約束されているものではありません。

成長に向けた事業展開

経済・社会・環境の変化に対応した人々や産業の中心となる八代港

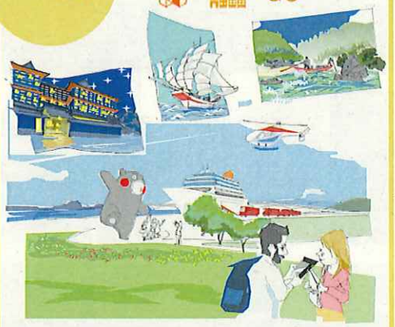
	八代港の将来像	将来像実現に向けたこれからの取組み
基盤となる機能の強化	**将来像 1 物流** 南九州の物流のゲートウェイとして、一次産品、工業製品などの移輸出入の窓口となる港	■ 航路サービスの拡充 水深 14m航路の整備/中国への新規コンテナ航路の誘致 等 ■ 移輸出入の拠点化 半導体関連貨物の集貨/DX を活用した湾物流機能の効率化 等 ■ 地域産業の強化 競争力確保のための支援体制の充実 等
基盤となる機能の強化	**将来像 2 人流** くまモンポート八代を中心として、八代市内外への周遊や消費の活性化が起きる港	■ クルーズ拠点形成 ポートセールスの強化による寄港回数の拡大 クルーズ客に対する地元消費型旅行商品の開発 等 ■ 地域内外の観光拠点化 観光客に対する広域連携による旅行商品の開発 地域資源を活かしたアウトドアツーリズムの開発 等
基盤となる機能の強化	**将来像 3 防災** 市民生活や産業活動を災害から守り、速やかな復興に寄与するための港湾機能が整っている港	■ 地域のレジリエンス向上 災害時の避難地としての活用 避難所としての港湾企業との協力体制の強化 等 ■ 広域防災への貢献 倉庫を活用した支援物資の一時保管などバックアップ機能の強化 南海トラフ地震など非常時の広域防災体制の確立 等
時代の潮流に合わせ強化していく機能	**将来像 4 産業集積** 企業ニーズに応え、持続的発展に向けた土地有効活用が実現した港	■ 持続的発展に向けた土地利用 港湾エリアを含めた新たな工業団地の検討・整備 等 ■ 地域企業にとってのビジネスチャンスの拡大 バルク、コンテナ貨物増につながる企業誘致、背後企業の成長促進 等
時代の潮流に合わせ強化していく機能	**将来像 5 担い手確保** ダイバーシティや女性の活躍が浸透し、誰もが働きたいと思える港	■ 港湾関連業務の人材育成 港湾関係資格取得の支援 就職、定着につながる港湾関連企業の雇用体制構築の支援 等 ■ 情報発信 港湾関連企業の情報発信 等
時代の潮流に合わせ強化していく機能	**将来像 6 デジタル技術の活用** デジタル技術の発達等、今後の急激な社会経済環境の変化に柔軟に対応し、持続的に発展する港	■ 港湾のスマート化・強靭化 デジタル技術を活用したコンテナターミナル内の省力化・効率化 等 ■ 港湾業務のデジタル化 港湾物流システムの導入による労働環境の改善 等
時代の潮流に合わせ強化していく機能	**将来像 7 カーボンニュートラル** カーボンニュートラルな社会における産業や生活の基盤となる水素等の脱炭素燃料の受入が推進される港	■ 港湾地域の脱炭素化 モーダルシフトの推進による CO_2 の削減 脱炭素社会の実現に向けた取組周知・啓発活動の推進 等 ■ 脱炭素化による競争力強化 バイオマス発電の燃料受入れ供給拠点の形成 等

八代港の将来像

物流

新規コンテナ航路の開設による新たな貨物の獲得、背後企業との連携強化や水深 14m航路の整備により、国際貿易港としての競争力が増し、南九州の物流拠点として更なる機能強化が図られています。

人流



くまモンポート八代を中心に、港を起点とした誘客による経済効果の創出が図られています。また、クルーズ船寄港時には「八代・天草シーライン」を活用した観光など多様かつ新しい価値が創出されています。

防災

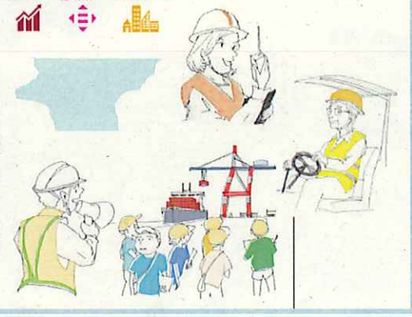
防災・減災対策を備えた港として、ハード・ソフト両面において関係機関の連携による支援体制の構築が進められています。広域災害発生時には、耐震強化岸壁を活用した迅速な海上支援が行われています。

産業集積

加賀島地区を中心とした土地利用や企業誘致が進み、新たな産業集積や背後地産業の育成が図られることで、地域企業の持続的発展につながっています。

担い手確保

港湾関連企業の情報が幅広く発信されることで人材確保が進み、スペシャリスト育成やダイバーシティの促進により、働きがいのある雇用環境が整っています。



デジタル技術の活用

デジタル技術や AI が活用され、港湾業務の省力化・自動化が進み、八代港の貨物量増加に対応したスムーズな荷役作業が行われています。

カーボンニュートラル

市全体で CO_2 削減に向けた取組みが浸透するとともに、港湾エリアにおいても八代港の特徴を活かした脱炭素の取組みが広がっています。